



Data 2022-73

監督・脚本：小泉堯史
 原作：司馬遼太郎『峠』
 出演：役所広司／松たか子／香川京子／田中泯／永山絢斗／芳根京子／坂東龍汰／榎木孝明／渡辺大／矢島健一／AKIRA／東出昌大／佐々木蔵之介／井川比佐志／山本學／吉岡秀隆／仲代達矢

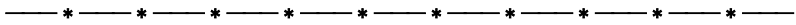
👁️👁️ みどころ

かつて日本社会党が唱えた“非武装中立論”のナンセンスさは明らかだが、スイスを理想形とした“武装中立論”の現実味は？

河井継之助がそれを、どこでどう学んだのかは知らないが、長岡藩にそんな政策（安法制）がホントに妥当するの？新政府軍5万に対して、越後の長岡藩の兵は690名だから、いくらガトリング砲を1門持っても・・・。

河井継之助がオルゴールを愛する姿は、坂本龍馬がブーツを愛用したのと同じ。侍の世の終わりを予見したのも、2人は同じ。しかし、アメリカの入札制にヒントを得て「船中八策」を立案した龍馬に対し、家老の立場と最後のサムライに固執し続けた継之助とは大きな違いが・・・？

小泉堯史監督がスクリーン上であえて見せなかった切腹の姿を想像しながら、河井継之助と坂本龍馬、榎本武揚との違いを考えてみるのも一興だ。



■明治維新から150年！今なぜ司馬遼太郎の「峠」を？■

私が大学に入学した1967年は、1867年10月の大政奉還から100年の年だった。そして、年を経るのは早いもので、2022年の今は、明治維新から既に150年を経過している。

他方、日本を代表する国民的作家・司馬遼太郎が死去した1996年2月は、バブル崩壊に伴う不良債権の処理について「公的資金投入の是非」が議論された時代で、64年間も続いた昭和が終わり、平成8年になっていた。私は、司馬遼太郎の小説が大好き。その中でも、大学時代に読んだ『竜馬がゆく』と『坂の上の雲』の2つが最も好きだ。司馬遼太郎の小説が好きな映画監督は多いから、これまでも多くの彼の小説が映画化されており、その直近は原田真人監督の『燃えよ剣』（20年）『シネマ50』（156頁）。それは、新

選組副長・土方歳三の太く短い生きザマをテーマにしたものだった。

長年、黒澤明監督に師事してきた小泉堯史監督もその一人だが、彼は『明日への遺言』（08年）（『シネマ18』243頁）における岡田資中将や『蝸ノ記』（14年）（『シネマ33』未掲載）における戸田秋谷等、歴史上の特定の人物に焦点を当てて掘り下げていくのが好きな作風だから、司馬遼太郎の『峠』は好ターゲット。『坂の上の雲』はさすがに2～3時間の映画にはできなかつたため、NHK スペシャルドラマ「坂の上の雲」として完成させたが、『峠』なら2時間内外での映画化は十分可能だ。

私は戊辰戦争で天才的な軍才を振るい、近代日本の兵制を創設した大村益次郎に焦点を当てた『花神』は大好きだったが、長岡藩家老・河井継之助に焦点を当てた『峠』はイマイチだった。それは同作に見る彼の思想も実際に果たした役割も、私にはあまり納得できなかったためだ。しかし、小泉監督はそんな司馬遼太郎の名作『峠』とどう向き合うの？そして、どんなテーマで映画化するの？

■□■テーマは最後のサムライ！その狙いは？その成否は？■□■

明治維新の有名人の断トツは坂本龍馬。それに続いて、西郷隆盛、大久保利通、木戸孝允、勝海舟、等が続く。つまり、司馬遼太郎が取り上げた『花神』の大村益次郎や『峠』の河井継之助はそれほど有名ではない。その上、河井継之助は北越戦争で名を成したものの、賊軍として敗れ、死亡してしまったから、歴史上の評価もそれほど高いものではない。

それに対して「いやいや、そんなことはない！」「彼は坂本龍馬と並ぶ先見の明を持ったすばらしい人物だ！」と主張したのが、司馬遼太郎の『峠』。そこでのハイライトは、ガトリング砲であり、ヨーロッパの小国スイスが推進した“武装中立論”だから、たしかにそれはすごい。河合継之助が妻に贈るオルゴールにこだわる姿は、まるで坂本龍馬がブーツに憧れる姿と同じように、無邪気で微笑ましいものだが、その新進気鋭の精神こそ明治維新に重要だったわけだ。

他方、徳川時代には「士農工商」の身分制度をはじめ、がんじがらめの制度に縛られていたが、坂本龍馬は“脱藩”というとんでもない行動に出ている。ところが、河井継之助は長岡藩家老という“立場”にこだわったうえ、自分が“最後のサムライ”になることにもこだわっていたらしい。小泉監督はそれを本作のサブタイトルにしたわけだが、その狙いは？その成否は？

■□■長岡藩の“武装中立”の思想とは？その現実とは？■□■

2022年2月24日のロシアによるウクライナ侵攻に始まった“ウクライナ戦争”は4ヶ月を経過した今、一進一退を続け、長期化、泥沼化の様相を呈している。明治維新における戊辰戦争や北越戦争とウクライナ戦争を対比するのは無意味だが、ウクライナは意外な大国であることを認識すれば、長岡藩がいかにもちっぽけな小藩であるかがよくわかる。

河井がどこでヨーロッパにおけるスイスの武装中立の思想を学んだのかは興味深い、それを鳥羽伏見の戦いから始まった戊辰戦争から、北越戦争に入っていこうとする時代に

応用しようとするのは、少し現実味に欠けるのでは？新政府軍約5万人の軍勢に対して、長岡藩は690人と知ってビックリ！それではいくらガトリング砲を1門持っていたとしても・・・？長州の高杉晋作は、長州征伐に向かってくる幕府軍に対抗するべく、従来の武士にとらわれない“奇兵隊”等の“諸隊”を結成したが、河井にはそんな新工夫は全くみられない。小が大に本気で武力で対抗するのなら、“サムライ”にこだわらず、“国民皆兵”、すなわち、農民も農具から刀・槍に持ち替えて“ゲリラ戦”で対抗するくらいの開明的な思想を持たなければダメなのでは？

本作は河井に扮する名優・役所広司のセリフが多いのが特徴。そこではたしかに名セリフが多いが、私に言わせれば、それは身分制度や若者の将来についてのものだけで、現実の戦争についての名セリフは全くない。また、新政府軍の軍監たる岩村精一郎（吉岡秀隆）との“交渉”を見ている、私が毎日観ている中国TV歴史ドラマの「三国志 軍師同盟」のような“権謀術策”は全く見えず、ただただ正攻法で攻めたあげく玉砕するだけだ。これでは、いくら武装中立を唱え、ガトリング砲を所有しても、現実味は全くないのでは？そう思っていると、案の定・・・。

■□■奪還は見事だが、4日天下では！アラモの砦方式は？■□■

1974年に独立して坂和法律事務所を開設した私は、大阪弁護士会で3番目にワープロ（ワードプロセッサ）を購入した。その価格はなんと340万円。翌年には半額に下がり、その後も下がり続けたが、それは結果論。私は法律事務所にとってワープロの機能がいかに大切かを見抜く先見の明があったことを誇りに思っている。

スイスの武装中立の思想を学んだ河井がガトリング砲に目をつけたのは立派だが、1門だけで本当に役に立つの？また、それを使いこなすには、何が必要な？ウクライナ戦争でも、ゼレンスキー大統領はアメリカやNATO諸国に新規の武器供与の必要性をアピールし続けているが、最新の武器を使いこなすためにはそれなりの訓練が必要だ。その点ウクライナはどうなっているの？そんな目で北越戦争におけるガトリング砲の働きを見ていると、これではダメ！

また、いくつかの峠を守りの拠点にするという河井の戦略戦術には納得だが、ほんとにこの程度の“補強”で峠を守り切れるの？『アラモ (THE ALAMO)』(04年) (『シネマ6』112頁)では、正規軍ではなく志願兵が守備隊として大活躍。それでも多勢に無勢、結局は玉砕してしまっただが、アラモの砦の精神は後々までアメリカの伝統として残った。それに対して、守りの拠点となる峠を破られた河井はすぐに長岡城からの撤退を命じたから、アレレ？もっとも、その後“ある戦術”で長岡城を奪い返したのは立派だが、それでも、お城を守ったのはたった4日間だけ。それでは無意味なのでは・・・。

■□■河井継之助VS坂本龍馬VS榎本武揚、三者の比較は？■□■

坂本龍馬は残念ながら31歳の若さで暗殺されてしまったが、死の直前に彼が残した「船中八策」は、新政府の「五箇条の御誓文」の礎になった。龍馬が無邪気にブーツに憧れる

子供っばさは、河井が無邪気にオルゴールに憧れる姿と同じ。また、侍の世の終わりを予言していたのも2人は同じだ。しかし、他方で龍馬は蒸気船で七つの海を渡っての世界貿易（経済）や、アメリカにおける入札制（大統領の直接選挙制度）等に興味を持ち、それを倒幕後に樹立する新政権の土台に据えるという大局観を持っていた。それに対して、長岡藩家老の立場にこだわり、また最後の侍にこだわった河井は？

他方、幕臣の次男として生まれた榎本武揚は、昌平坂学問所、長崎海軍伝習所で学ぶエリートの道を歩み、旧幕府艦隊のリーダーになったが、その艦隊を率いて会津藩を中心とする奥羽越列藩同盟の支援に向かったからすごい。蝦夷地（北海道）に入り、五稜郭を占領した榎本は、近藤勇亡き後の新選組を率いて合流していた土方歳三らと共に、五稜郭の攻防戦に全力を傾けたが、敗北。榎本は投獄されるに至った。

小泉監督は、本作ではあえて河井の最後（切腹）の姿を描かなかったが、『日本のいちばん長い日』（67年）では三船敏郎演じる阿南惟幾陸軍大臣の長々とした切腹のシーンが印象的だった。河井は銃弾で左足を射抜かれたただけだから、適切な治療さえすれば生存は十分可能だったはず。したがって、河井が本作に見るようなカッコいい(?)最後を迎えず、榎本のように捕虜になっていたら、ひょっとして新政府の要人として大活躍したのでは？もしそうだとしたら、そうなるこそ、真の河井継之助の価値なのでは？そうすると、河井継之助と坂本龍馬や榎本武揚との違いはどこに？本作の鑑賞を契機に、それをあらためて考えてみるのも一興だ。

2022（令和4）年6月24日記